

## 小児科研修プログラム

### 1) 概要

プライマリーケアの大切な一部を占める、総合診療科としての小児科診療の基本を身に付ける事を目的とする。日本小児科学会研修実施要項案に基づくが、当院の現況に即したプログラムを以下に示す。

### 2) 研修目標

- ① 小児の特性を学ぶ; 常に成長発達を意識して診療する必要があるため、正常新生児、乳児健診を経験する。小児は原則として家族内で生活しているため、家族との関係を良好に保ち、育児支援をふくめ、患児とその家族全体を考えて診療する。
- ② 小児の診療の特性を学ぶ; 自ら症状を訴えず、診察に協力の得られにくい乳幼児の診療の特性を学ぶ。検査や画像に先行して重要な「初期印象診断」の経験を蓄積する。診察、処置時の固定、介助を経験する。体重、生理的成長に適した薬用量、補液量、検査正常値の知識を習得する。予防接種、マスキングにつき経験する。
- ③ 小児の疾患の特性を学ぶ; 年齢、発達段階により病態、頻度が異なる疾患につき理解する。一般的症状で始まっても重篤化する危険のある疾患を考えて対応する。先天性疾患、新生児の出生、感染症など小児に特徴的な疾患を学ぶ。

### 3) 経験目標

- ① 基本的手技; 採血、皮下注射、血管確保、(導尿、胃洗浄、腰椎穿刺、後鼻腔培養) は個人の経験、技術の程度に応じ、指導医のもとで行う。身体計測。口腔、皮膚、胸部、腹部他、身体所見の診察。全身状態、バイタルサインの把握。予防接種。乳児健診。
- ② 重要な疾患; 低出生体重児、新生児黄疸、**新生児呼吸障害**(新生児回診にて)。急性感染症、胃腸炎、肺炎、気管支炎**など**、**川崎病**(一般外来、**病棟研修**)。食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎(アレルギー外来、**病棟研修**)。てんかん、発達遅延(神経外来)。尿路感染症、ネフローゼ症候群、慢性腎炎(腎臓外来、**病棟研修**)。先天性心疾患、川崎病後遺症(心臓外来)。

### 4) 研修プログラム予定

指導医(小児科部長、医長)とともに、以下の業務を研修または見学する。

病棟、一般外来、新生児回診(平日、午前)

専門外来見学; アレルギー(水午後)、心臓(水午後)、腎臓(金午後)

乳児健診(月金午後)

予防接種外来(火午後)

平日夜間時間外診療(適宜)、帝王切開や異常分娩立会い(適宜)

### 5) 評価

研修目標達成度、経験項目について、研修途中に指導医と研修医で検討、修正する。研修終了時は指導医と研修医の相互評価を行う。

以上